

368. 電圧の種類

	交流	直流
低圧	600V以下	750V以下
高圧	低圧を超え7000V以下	
特別高圧	7000Vを超えるもの	

＜電圧の区分＞

電技(電気設備技術基準)では規制上の段階として、電圧を低圧、高圧、特別高圧に区分している

※低圧は交流600V以下に対して直流750V以下と、

交流の方が低くなっているが、これは交流には実効値の他に最大値が有るため

＜電気学会電気規格調査会標準規格「JEC-0222(2009)」の標準電圧＞

公称電圧: その線路を代表する線間電圧 ※1

└ 1000Vを超えるもの[kV]: 3.3, 6.6, 11, 22, 33, (66, 77), 110, (154, 187), (220, 275), 500, 1000

└ 1000V以下[V]: 100, 220, 100/200, 415, 240/415

最高電圧: その線路に通常発生する最高の線間電圧

└ 1000Vを超えるもの[kV]: 3.45, 6.9, 11.5, 23, 34.5, (69, 80.5), 115, (161, 195.5), (230, 287.5); ※2, 1100

※1: () 内の電圧は、1地域においては、いずれかの電圧だけを採用する

※2: 500kVの最高電圧は、各線路ごとに525kV, 550kV, 600kVのいずれかを採用する

＜最大使用電圧＞: 普通運転状態でその回路に加わる線間電圧の最大値

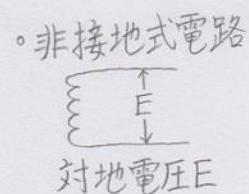
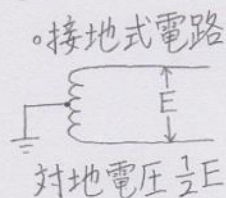
└ 公称電圧1000V以下の電路: 公称電圧の1.15倍

└ 公称電圧1000Vを超え、500kV未満の電路: 公称電圧の1.15/1.1倍

。解釈(電気設備技術基準の解釈)では、耐圧試験値電圧値の規定基準として、その電路の最高使用電圧を根源として定めている

＜対地電圧＞: 一般的には、電路と大地との間の電圧

。電技および解釈においては、接地式電路(中性点または一端を接地した電路)では上記の通り。非接地式電路では線間電圧を指す



他の科目の公式は暗記するけれど、法規の条文暗記はポイントを書いてやるわないと厳しいわ



試験では電技の条文穴埋めと、解釈の正誤問題や数値などの選択が主に出題される
ちなみに、法規科目は電技と解釈の配点が最も多く、勉強すべき範囲はかなり多い

今回から電気設備技術基準(電技)と電気設備技術基準の解釈(解釈)の内容に入る

